

## ラボ・センター紹介

## 国際政治経済システムラボ

(Laboratory for International Politico-Economic Systems)

代表: 谷口智彦

専門分野: 現代史、政治経済システム、国際関係

メンバー: 狼嘉彰、日比谷孟俊(いずれも元SDM教授)、川口卓ほか多数



ゼミ風景

マーク・ゲイン『ニッポン日記』を読んでいます。著者ゲインは、敗戦と同時に日本へ乗り込んだ外国特派員の一人。シカゴ・サン紙からの特派でした。左傾思想を疑われ、そんな人の常かカナダに移り同地で記者生活を全うしました。先般カナダから来た記者にマーク・ゲインを知っているか尋ねてみたら、「自分にとってヒーローの一人」だと即座に答えが返ってきて、少なくとも彼国では忘れられていない人と知りました。

占領終了間際に筑摩書房から上下二巻本で現れ、洛陽の紙価を高からしめた(紙が貴重だったからこれは文字通り)一大ベストセラーです。日本国憲法制定経緯は、同書を通じて初めて国民多数の知るところとなりました。農地改革や財閥解体、はたまた腕一本で成り上がり宮家や総司令部に太い人脈を築いたと思いきや、次の瞬間失墜する動乱型起業家の横顔など、達意の名訳とあいまち巻措く能わざる面白さです。

読書会参加者は狼、日比谷の両大家から学卒直入の院生まで。書かれた当時を知る者、よく推察できる者、まるで異世界の話としか思えない者と、多岐に亘ります。知らない固有名詞や、解釈に迷う事象に行き当たる度、それは何か、どんな話か徹底的にテキストを考証するのがスタイル。

神は細部に宿り給うといひます。こうした手法が炙り出す敗戦ニッポンのリアリティに、参加者は息を呑み、嘆息として吐き出します。お分かりでしょう。これは現行制度をその揺籃期に遡り、システムの由来を訪ねる遡上の旅なのです。私はその第一観察者として、毎回至福のひと時を送ります。筑摩は戦後70年記念企画として、同書再販を決めました。決断を促したのは、このラボとそのささやかな営みでした。

(谷口智彦)



ゼミ集合写真



ニッポン日記



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1 慶應義塾大学 協生館  
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: [sdm@info.keio.ac.jp](mailto:sdm@info.keio.ac.jp)

  
System Design and Management